受付番号

「ひらく、にぎわう、つなげる、まもる」岸和田市の第三のシンボル「共創の庁舎」



戦後復興のシンボルから、市民と行政の架け橋へ

- これからの庁舎は、DX技術の普及により来庁者が減少します。しかしながら、市民と行政の架け橋という役割を担うため、手続きや相談以外の市民も気軽に立ち寄り滞在できる施設としていくことが求められています。
- 現庁舎は、戦後復興の象徴として市民に親しまれてきました。本計画では、これからの庁舎に相応しい、多世代の交流が溢れる「共創のシンボル」となる庁舎を目指します。

基本方針を実現する5つのコンセプト

コンセプト 1
まちに開かれた庁舎
まちをひとつにつなげる結節点

コンセプト 2
岸和田らしい庁舎
道の文化を受け継ぐ賑わいの風景

コンセプト 3
有機的な機能連携
市民・職員・議員が主役となる庁舎

コンセプト 4
新しい働き方
多様な働き方を支える執務室

コンセプト 5
環境性能と防災性能
環境にやさしく堅牢な庁舎

【業務実施体制・業務実施方針】
本業務を実施する体制が整っているか（チームの特徴）

事業を確実に実現に導くチーム体制

庁舎設計の豊富な経験と実績を活かした業務推進

- 庁舎建築の数多くの実績と経験を持つ管理技術者と主任技術者により本事業の最適なチーム体制を整えます。
- DX技術の導入や業務改善、働き方改革などの最新動向を共有し、よりよい庁舎づくりに貢献します。
- メリット・デメリットを明確にした複数案の提示により、設計の節目節目での円滑な庁内での合意形成を図ります。

社内専門技術チームの参画による事業実現性の向上

- 最新の施工技術や施工計画のノウハウを有した技術グループが、工事工程の作成や仮設計画を行います。
- 定期的に設計及び計画建物の品質確認を行い、設計チームへの工事費や工法などの助言を通し、トータルでの品質向上に努めます。
- 環境シミュレーションやBIM・3D検証を用い、客観的な評価（エビデンス）に基づいて設計を進めます。

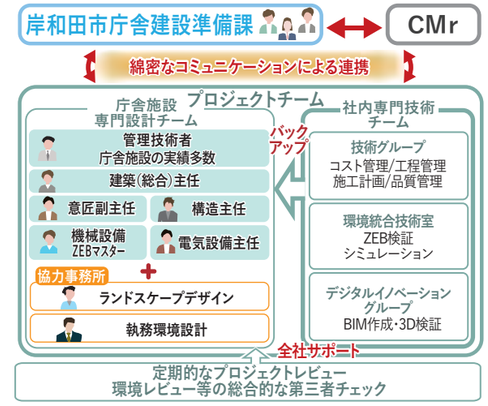
ZEB性能の確実な達成、補助事業への取り組み

- 岸和田市の気候特性に適した費用対効果の高い環境技術を採用し、ZEB性能を確実に達成します。
- 弊社は、庁舎設計において補助事業の採択実績を有しています。設計の初期段階からZEBプランナーが計画に参画し、補助事業への取組を積極的に進めます。



S 市新庁舎	N 村新庁舎	S 市新庁舎	Y 市新庁舎
サ ステナブル 建築物等先導事業の実績		Z EB施設の実績	
庁舎	3件	S市庁舎	ZEB Ready
オフィス	6件	Y市庁舎	ZEB Ready
教育施設	6件	T大学施設	ZEB Ready
医療施設	1件	N村庁舎	Nearly ZEB
合計 16 件		D大学施設	ZEB

補助金および ZEB 施設実績



綿密なコミュニケーションと合意形成

- 仕様決定においては、複数案による比較を行い、全ての関係者が納得できる合意形成を図ります。
- 3Dモデルや VR を活用したわかりやすい説明により、確実な合意形成を図ります。
- 議員説明や住民説明会などにも積極的に参加し、庁舎建設への理解を得ることに努めます。

職員、市民との共創・協働のワークショップ

- ワークショップを開催し、庁舎のあり方を市民と考え、供用開始後のスムーズな運用につなげます。
- 執務環境分科会を開催し、各部会との丁寧な対話と合意形成を図ります。
- 先進事例の視察やワークショップを通し、これからの市民サービスのあり方や、ここで働きたいと思える庁舎を皆様と共に考えます。



地域の方々とのワークショップ

【業務工程計画】
スケジュールの考え方が適切か

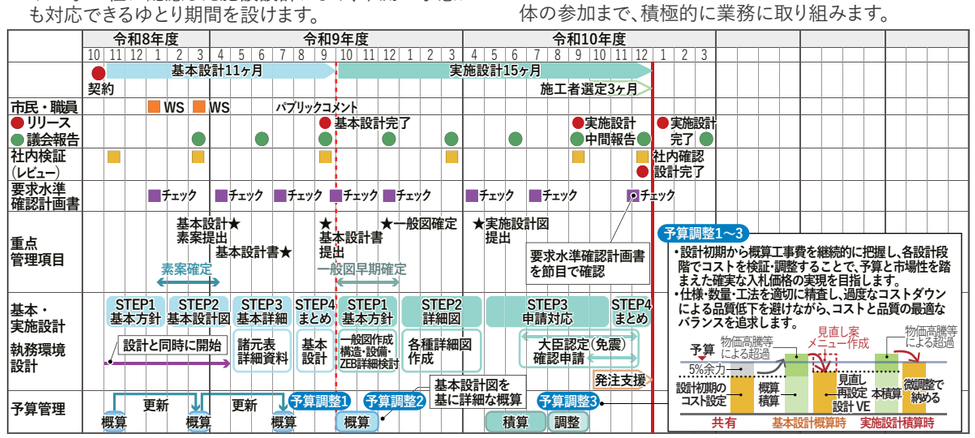
確実な業務推進と工程遅延リスクへの対応

4つのステップで進める確実な設計プロセス

- 基本設計と実施設計をそれぞれ4つのステップに分け、課題と目標を明確にし、段階的な合意形成を図ることで、手戻りのない着実な業務推進を図ります。
- ステップに分けることで、計画の進捗状況を見える化することで、設計工程が共有しやすく、また工程遅延や取り戻すべき課題が把握しやすくなります。

工程遅延に対する2大リスクへの対策

- 予定通りの事業達成に対し、近年の工事費高騰による予算管理と、労務確保や社会情勢の影響を受けた工事の遅延が最大のリスクと言えます。
- 設計工程において、複数回のコスト算出と予算調整期間を設け、入札に向けた入念な準備を行います。
- 工事の遅延リスクに対し、設計期間の短縮と施工計画や工事工程に配慮した施設設計により、不測の事態にも対応できるゆとり期間を設けます。



【計画の理解力】
本事業の目的、要求水準を十分に理解しているか

要求水準の達成と付加価値の創出

要求事項の見える化と確実な設計品質の実現

- 基本設計開始時に、要求水準を要求水準確認計画書に整理し、基本設計、実施設計の各ステップで設計への反映状況を検証し、抜け漏れや手戻りを防ぎます。
- 要求水準確認計画書を用い、反映状況や検証を可視化し、円滑な庁内合意につなげます。

要求水準を超えた＋αの価値を生み出す設計

- 要求水準を正確に読み解き、背景にある課題や将来の変化まで見据えた付加価値を提案します。
- 基本設計・実施設計の各段階で、様々な比較検討をご提案し、「要求を満たす」設計から、「期待を超える」設計へと深化させます。
- 市民・職員・行政・地域の視点に立ち、多様なニーズに応える満足度の高い設計を目指します。特に庁内合意に向けた各部会での調整は、資料のご提示から会議体の参加まで、積極的に業務に取り組みます。

【計画の理解力】
本事業の目的、要求水準を十分に理解しているか

工期・機能性・コスト実現に向けた課題

早期の供用開始を実現するロードマップ

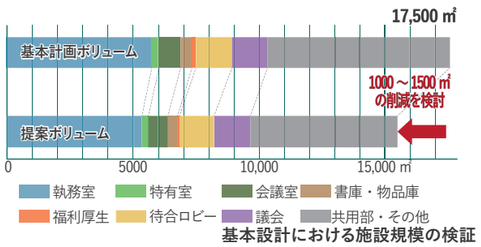
- 確実な合意形成による設計業務の推進や、工法、施工リスクの検証による工事工程の作成により、早期の供用開始を実現できるロードマップをご提案します。
- 設計期間中にサウンディング調査などを通し、施工者の動向調査や社会情勢の確認を行い、設計を進めます。

将来にわたり安心して利用できる機能性の追求

- 変化に柔軟に対応できる、可変性の高い空間構成とし、将来の組織改編や働き方の変化にも対応します。
- DXや新たな行政サービスの導入を見据えた拡張性を確保し、将来の変化にも安心して対応できる計画とします。
- 更新・改修しやすい構造・設備計画により、長期にわたり機能を維持し、使い続けられる庁舎を実現します。

適正規模の検証による無駄のない施設計画

- 計画開始と同時に、詳細な要件整理を行い、必要な施設規模を再検証します。
- 同規模庁舎の機能別面積との比較や、諸室の効率化、重ね使いなど、合理的かつコンパクトな施設計画を行います。
- 無駄のない共用部、一部駐車場や受水槽、発電機の屋外設置、集密書架による倉庫面積の削減など、様々取組により、イニシャル・ランニングコストの低減につながる施設計画をご提案します。



基本設計における施設規模の検証

受付番号

ひと・まち・歴史・文化をむすぶ、まちに開かれた庁舎



【庁舎の全体構成と外部空間】庁舎の全体計画

まちをひとつにつなげる結節点となる庁舎

多様なまちの性格が融合する、岸和田市らしい庁舎づくり

- 計画地周辺は、駅を中心に、歴史・文化、商業、教育・公共といったまちの性格が集積しています。
- 新庁舎の計画地は、教育施設、公共施設が集まる市民の生活エリアに位置し、これまでよりも市民に寄り添う庁舎づくりが求められます。
- 歴史・文化、商業エリアと市民の生活エリアの結節点となることで、岸和田市らしい庁舎を目指します。

移転効果を最大化する、にぎわいループの創出

- 新庁舎の移転をきっかけに、駅周辺の都市機能の充実により、中心市街地の活性化につなげます。
- 駅前、庁舎、野田町商店街をひとつながりにむすぶことで、地域全体に賑わいが波及する、魅力あるまちづくりに貢献します。



中心市街地を活性化するにぎわいループ



まちをつなげる結節点

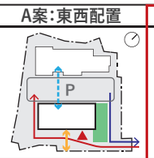
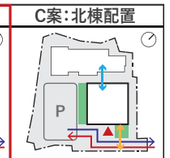
【庁舎の全体構成と外部空間】庁舎の全体計画

施設とまちの関係から考える最適な配置計画

多層的な要件を満たす配置計画の課題整理

- 配置計画は、以下の課題をもとに、安全性や合理性に配慮し、施設利用者だけでなく地域にとっても良好な環境を創出できる計画とします。

課題① 庁舎棟	**成形な形状、要求規模の確保。**庁舎の顔づくりや**アクセスの良さ。**
課題② 駐車場	**分かり易さ、安全性**の確保。2施設での**共用のしやすさ**や、災害時の**活動拠点としてのまとまり。**
課題③ 広場・空地	多様なイベントに対応できる**十分な広さや豊かな沿道空間**の創出。
課題④ 施設連携	福祉総合センターとの**機能連携のしやすさ。**
課題⑤ 周辺環境	庁舎からの圧迫感や日影、プライバシー、騒音など、**周辺環境への負荷が最小限**となる計画。

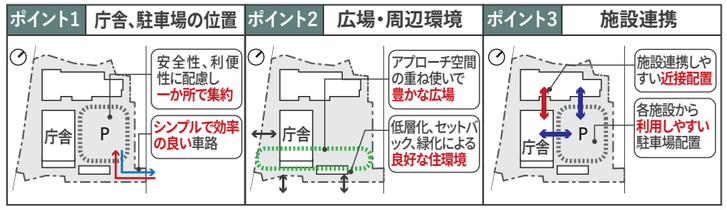
比較検討案	A案：東西配置	B案：南北配置	C案：北棟配置
凡例 ▲主出入口、車寄せ ←車動線（入庫） ←車動線（出庫） 施設連携動線 広場・空地 ↔離隔距離			
①庁舎棟	正面が住宅と対面する	東西道路に正面が向き分かり易い	東西道路から正面が認識しづらい
②駐車場	2棟間に効率良く確保できるが車路が長い	2棟間に効率よく確保車路が短い	2棟間に効率よく確保車路はやや長い
③広場・空地	まとまりのある広場や空地の確保が難しい	ある程度の広場を確保できる	面積は確保できるがまとまりがない
④施設連携	2棟間距離が遠い駐車場をまたぐ	2棟間距離が近く工事費を抑え連結できる	2棟間距離が近く工事費を抑え連結できる
⑤周辺環境	南住宅と近く執務室等の開口部が対面する	住宅と距離が近いが妻面の開口部を制限できる	住宅との距離を確保できるがプライバシー対策は必要
総合評価	現状駐車場を残せるが施設計画に課題が多い	**総合的なバランスが良い**	施設のバランスは良いが施設が認識しづらい

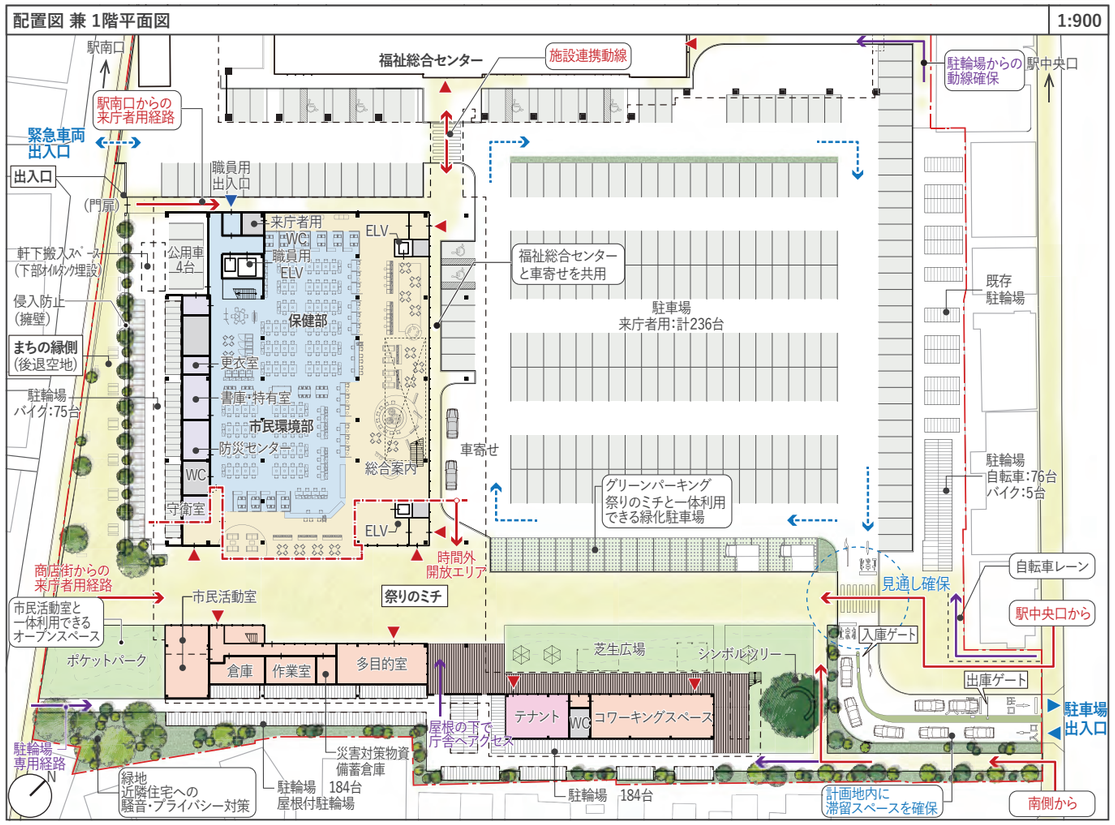
【庁舎の全体構成と外部空間】交通計画（車寄せ、駐車場、搬出入、緊急車両、避難経路）　【車両と歩行者の動線計画（動線全体）】駐車場内の車両及び歩行者の動線、車両出入口部の混雑緩和方策、安全確保

次の時代を担う、まちに開かれた庁舎のグランドデザイン

庁舎をまちに開く3つの提案ポイント

- 庁舎と駐車場の最適な配置により、誰もが安全で快適な動線を計画します。また、豊かな広場と沿道空間を庁舎と一体的に整備し、まちに開かれた外部空間を創出します。
- 計画地内の施設をつなぎ、一体的に利用できる環境を整えます。施設・広場・まちがつながり、市民の多様な活動を受け止める次の時代を育む庁舎を目指します。





利便性と思いやりのある歩行者動線

- 駅や周辺地域、駐車場から、短い距離で来庁できる多方向からのアクセス動線を設けます。
- 大きな軒下空間に車寄せや車いす利用者用駐車場を設け、雨天時の利便性を高めます。
- 駐輪場を庁舎と近接配置し、屋根の下で庁舎へ移動できる計画とします。
- 商店街側に歩道とつながる後退空地を設け、ベンチや街灯を設け、魅力ある沿道空間を計画します。

歩車分離による安心できる駐車・駐輪場計画

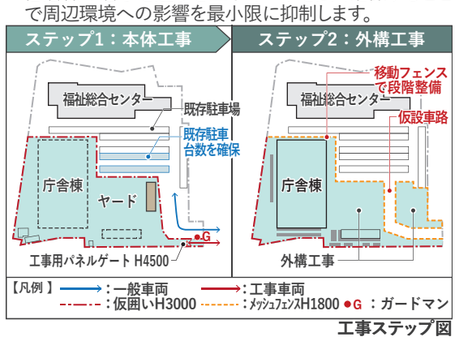
- 駐輪場への専用車路を設け、安全な歩行空間を計画します。
- 駐車場への出入口が東側のみとなる為、敷地内に滞留スペースを設け周辺の混雑を緩和します。
- 歩行者と車両の交錯を限定し、横断歩道周辺は歩行者、車両の双方からの見通しを確保します。
- 管制システムを導入し、施設利用目的以外の駐車を防止し駐車効率を高めます。



安全な歩行空間のイメージ

周辺に配慮した施工を実現する配置計画

- 工事期間中は、福祉総合センターの既存台数と同じ約140台を設け、駐車場からの安全な動線を確保します。
- 仮設駐車場をそのまま供用開始時に使用できるため、外構工事でのロスを最小限に抑えることができます。
- 庁舎棟を西寄りに配置し、工事車両の出入口が一か所であっても、車両が乗入れしやすい計画とします。
- 低層棟の着手を遅らせ工事ヤードを広く確保することで周辺環境への影響を最小限に抑制します。



工事ステップ図

道の文化を継承し未来の賑わいを育む「祭りのミチ」

【庁舎の全体構成と外部空間】景観に配慮したファサードデザイン、ランドスケープ、広場（緑地）の配置

岸和田らしさを受け継ぐ、市民に愛される庁舎

市民の愛着を醸成する新庁舎の3つの顔

駅前に対する「市民を迎える顔」

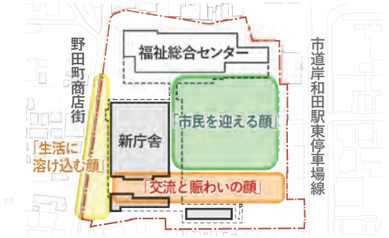
- 市道岸和田駅東停車場線に対し、道路からも視認できる街に開かれた顔をつくります。

多様な市民が集う「交流と賑わいの顔」

- 市民の居場所となる、日常の交流や賑わいが生まれる庁舎の顔をつくります。

地域との境をなくした「生活に溶け込む顔」

- まちとの境界を緩やかにつなぐ、地域の生活に溶け込む顔をつくります。

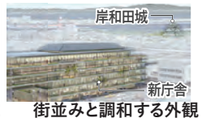


新庁舎の３つの顔

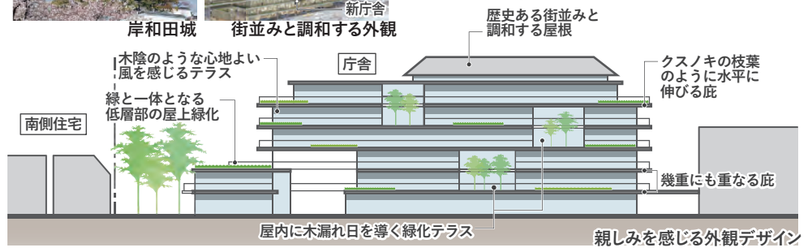
歴史ある風景と未来の姿の融合

- 最上部を屋根形状とし、歴史のシンボルである岸和田城や紀州街道の街並みと調和する、親しみを感じる外観デザインとします。
- 各階のテラスや開口部からは、市民の活動がにじみ出し、歴史ある風景とこれからの時代をつくる賑わいの風景の融合を図ります。


岸和田城



街並みと調和する外観



親しみを感じる外観デザイン

市民・職員を包み込むクスノキのような庁舎

- 水平に伸びる庇、緑化されたテラス、木陰のような外部空間を積層し、市の木であるクスノキの大きな樹冠を思わせる外観をつくります。
- 長寿の木として、古くからまちを見守ってきたクスノキと庁舎の姿を重ね合わせることで、市民と職員をやさしく包み込む庁舎を目指します。


クスノキ

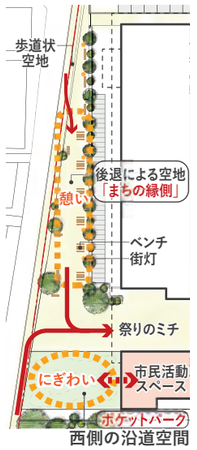

野田町商店街の新たな風景

【庁舎の全体構成と外部空間】景観に配慮したファサードデザイン、ランドスケープ、広場（緑地）の配置

まちにひらき、まちと共存する庁舎

憩い・賑わいの風景を創出する「まちの縁側」

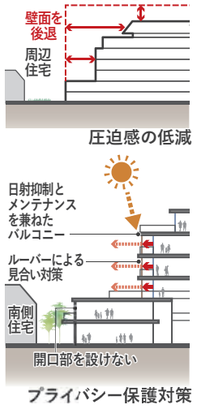
- 南西側の野田町商店街は、地域の暮らしや通勤、通学にとって欠かせない生活動線です。
- 既存のフェンスはセットバックし、歩道と連続する沿道広場を設け、多くの来庁者が集中しても安全な歩行空間を計画します。
- 沿道広場にはベンチや並木、情報パネルを設け、「まちの縁側」として地域に開放できる豊かな沿道空間を計画します。
- 南端には市民活動スペースと一体に利用できるポケットパークを設け、にぎわいある新しい風景を創出します。



西側の沿道空間

地域の生活環境を守る施設計画

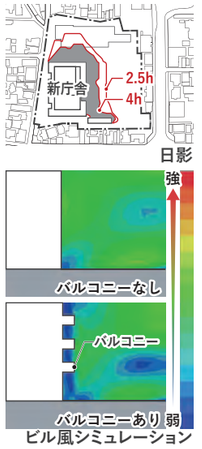
- 周辺住宅への圧迫感の低減やプライバシーの保護など、地域の生活環境に配慮します。
- 庁舎の高さを可能な限り低く抑え、さらに最上階を後退させるなど、周辺への圧迫感を低減します。
- 南側の住宅に配慮し、開口部を減らしルーバーを設けるなど、確実な見合い対策を行います。
- 各階のメンテナンスバルコニーにより、庁舎から周辺の住宅を見下ろしにくい計画とします。



プライバシー保護対策

日照の確保、騒音、光害、風害の抑制

- 庁舎は福祉総合センターのアリーナに近接した配置とし、近い隣棟間隔による連携のしやすさと日影の影響の最小化を実現します。
- 駐車場を建物で囲われた計画とし、周辺住宅に車両からの騒音や光害が生じない計画とします。
- 各階のバルコニーを設け、ビル風の吹き下しを抑制し、広場や住宅に風被害が生じない計画とします。



ビル風シミュレーション

【庁舎の全体構成と外部空間】景観に配慮したファサードデザイン、ランドスケープ、広場（緑地）の配置

市民・職員の日常が風景になる、岸和田らしさが溢れる「祭りのミチ」

岸和田らしい道の文化を受け継ぐ風景

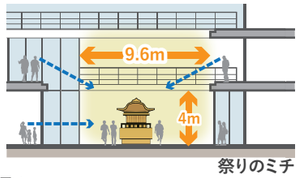
- だんじりが駆ける道、城下町の路地、商店街の通り、人々が行き交い交流する道。「岸和田市に溢れる道の文化」を受け継ぎ、新庁舎の象徴として市民活動や日常の交流が重なる、岸和田らしいミチの風景をつくります。



ミチの風景をつくる動線

市民と職員の日常が風景となる集いの場

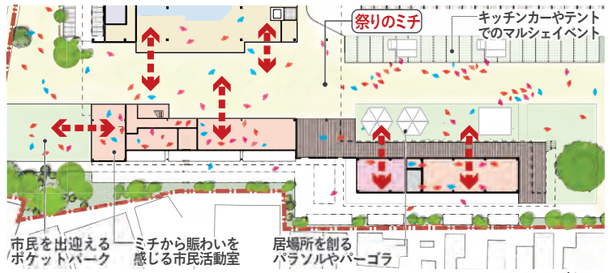
- 市民ギャラリーや多目的室、カフェ、食堂、コンビニ、コワーキングスペースなどを低層棟に集め、誰もが自由に過ごせる場を創出します。
- 市民と職員の活動が見え、自然と交流が生まれる、活気と温かさに満ちた庁舎を目指します。



祭りのミチ

まちの魅力を高める「ハレの広場」

- 祭りのミチは、マルシェやシティプロモーションイベントなど賑わいの舞台へと変化します。日常と非日常をつなぐ、岸和田の新しい交流拠点となります。



ミチのにぎわい


賑わいの舞台となる祭りのミチ


祭りのミチ

暮らしの記憶をつなぐ「ミチ」の風景

- 紀州街道の見世のような、格子や縁側を設け、人とまちを緩やかにつなぐ岸和田の暮らしの風景を低層棟に取り入れます。
- 人の活動がにじみ出し、自然に立ち止まり交流が生まれる「ミチ」をつくります。


紀州街道にぎわい市のようす


活動と交流が生まれる「祭りのミチ」

緑のネットワーク

- 外構と建物の緑化により、緑の溢れる庁舎とします。地域の緑地を緑のネットワークで結び、潤いのある豊かなまちの形成に貢献します。
- 祭りのミチに面した緑地と南西道路側に並木を設け、歩行者空間において効果的に緑を感じる植栽計画とします。



緑のネットワーク



必要緑化率 25%＜計画緑化率 25.9%
緑の配置

【庁舎の全体構成と外部空間】景観に配慮したファサードデザイン、ランドスケープ、広場（緑地）の配置

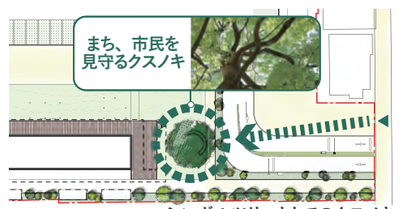
庁舎への親しみを高める「市民と未来を育む庁舎」

駅周辺地域における緑のネットワーク

- 外構と建物の緑化により、緑の溢れる庁舎とします。地域の緑地を緑のネットワークで結び、潤いのある豊かなまちの形成に貢献します。
- 祭りのミチに面した緑地と南西道路側に並木を設け、歩行者空間において効果的に緑を感じる植栽計画とします。

まちを見守る岸和田市の象徴「クスノキ」

- 古くからまちに点在する市の木であるクスノキをシンボルツリーとします。
- 一年中緑を保つ常緑樹であり、長寿の木です。庁舎の成長とともに育ち、まち・市民を見守る存在となります。



シンボルツリーとしてのクスノキ

市民と育てる憩いの庭

- ボランティア花壇を設け、市民の活動を景観として残せる庁舎を目指します。
- 市民とともに豊かな景観を創ることで、庁舎への親しみやまちへの愛着を高めます。


市民と育てるボランティア花壇

まちの記憶をとどめ未来に伝える外構デザイン

- 古くからの市の産業である煉瓦産業や林業、竹工芸などを取り入れた舗装やエクステリアを計画します。


レンガ舗装


木製ベンチ

第二の広場、まちを見渡す展望テラス

- 周辺住宅のプライバシーへの影響が少ない高層部に、安全に市民に開放できる展望テラスを計画します。
- 市街地や海、山といった岸和田市のパノラマを一望できるテラスを開放し、庁舎への市民の愛着を育みます。



まちを見渡す展望テラス


岸和田市のパノラマを一望できる展望テラス

受付番号

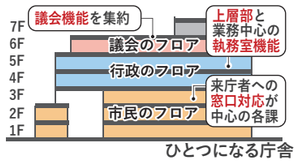
これからの行政サービスを創造する連携オフィス

【各庁舎機能の確保と相互の連携（個別機能空間）】各機能の確保、要求諸室の規模

だれもが分かり易く機能的な施設計画

市民・職員・議員が主役となる庁舎

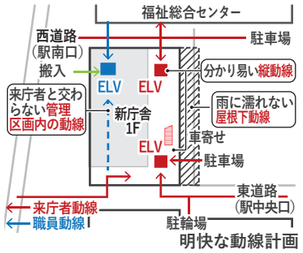
- 新庁舎は、低層階を「市民のフロア」、中層階を「行政のフロア」、最上階を「議会のフロア」とした明快な構成とします。
- それぞれの必要機能を各フロアに配置し、合理的かつ機能的な施設計画を行います。



ひとつになる庁舎

迷わない・交わらない明快な動線計画

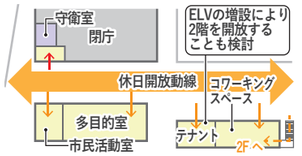
- 駅からの歩行者や駐車場の利用者、福祉総合センター利用者が庁舎にアクセスしやすいよう、多方向に出入口を設けます。
- 出入口の近傍には、上階への動線や総合案内、サインを設け、目的地まで分かり易く案内します。
- 職員専用出入口からは、管理区画内での執務室への動線を確保し、職員と市民が交わらない計画とします。



明快な動線計画

閉庁時の管理が容易なセキュリティ計画

- 延長窓口や夜間窓口、休日利用に対応しやすいセキュリティ計画を行います。また、守衛室は閉庁時の届出が受理が可能な、独立した出入口を設けます。
- 市民活動室や多目的室は、休日、夜間に単独で利用できる配置と設備計画とします。



管理しやすい平面計画

施設連携による行政と福祉の総合拠点

- 二つの施設を一体的な運用が行える計画とし、行政と福祉の総合拠点を整備します。
- 一階と二階を接続し、両施設をまたがる市民の手続き・相談や施設利用、関連部局の移動における利便性を高めます。
- 最小限の隣棟間隔により、少ないコストでの接続を実現します。



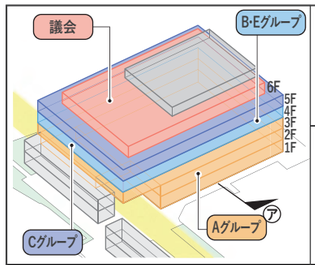
福祉総合センターとの連携

【各庁舎機能の確保と相互の連携（個別機能空間）】各機能の確保、要求諸室の規模

関連部門の連携を強化する合理的な機能構成

関連各課・諸室を集約するワンフロア構成

- コミュニケーション相関図のA～Eグループを、来庁者の利便性や業務効率に配慮し、機能的に配置します。
- 各階の床面積を最大化することで、関係各課と必要な会議室や特有室、書庫等等を集約し、業務効率の高いワンフロア完結型の計画とします。



議会：最上階に配置し、行政機能からの独立性を高めます。傍聴ロビーを活用した議会ラウンジや議会図書室、展望テラスを開放し、市民に開かれた議会を実現します。

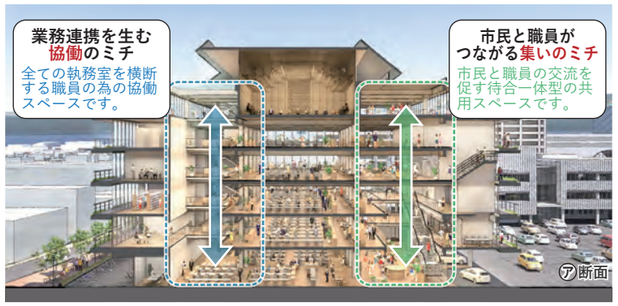
Cグループ：市長室をはじめ、市政を担う中心となることから、業務に集中しやすい行政フロアの最上階に配置します。また災害対策関連機能を集約し、発災時の迅速な対策本部の立ち上げに備えます。

Aグループ：関連窓口ごとに低層階の3層に配置します。階段やエレベーター等の来庁者動線と空間の連続性、見通しの良いフロア構成により、連続性のある計画とします。

Bグループ：来庁者が比較的多い為、アクセス性に配慮し4階に配置します。専門性の高い相談や会議が多い為、同じ階に多くの会議室を設けます。

人と業務の有機的な連携を生む「集いのミチ」と「協働のミチ」

- 市民と職員が自然に交流できる待合一体型の共用スペース、「集いのミチ」と、執務室を横断する職員のためのワークスペース「協働のミチ」によって、市民・職員・活動・業務など、庁舎に集まる多様な「人・コト・情報」の有機的なつながりを育みます。





【各庁舎機能の確保と相互の連携（個別機能空間）】低層階の空間構成（市民スペース広場との関係性）

集いのミチ（市民窓口のフロア）

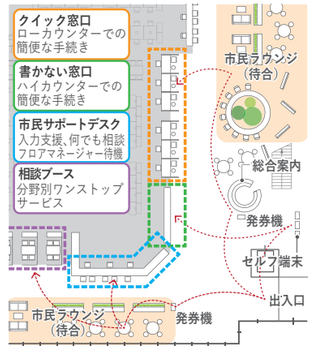
待つ・過ごす・つながる「集いのミチ」

待つ場所から、過ごし・つながる市民の居場所

- 待合は手続きを待つだけでなく、休む・話す・知るなど、思い思いに過ごせる場とします。
- 待ち時間を「市民の時間」へと変え、気軽に立ち寄れる身近な存在の庁舎を育みます。

ひとりひとりに寄り添う多様な市民サービス

- フロアマネージャーや市民サポートデスクを配置し、来庁者にきめ細やかなサービスを提供できる窓口をご提案します。
- 手続きスピードやプライバシー、テーマ別ワンストップ窓口など、多様なニーズに寄り添い、将来の可変性も考慮した、柔軟な窓口計画を行います。



集いのミチ平面イメージ

こどもから高齢者まで、多世代を支える交流の場

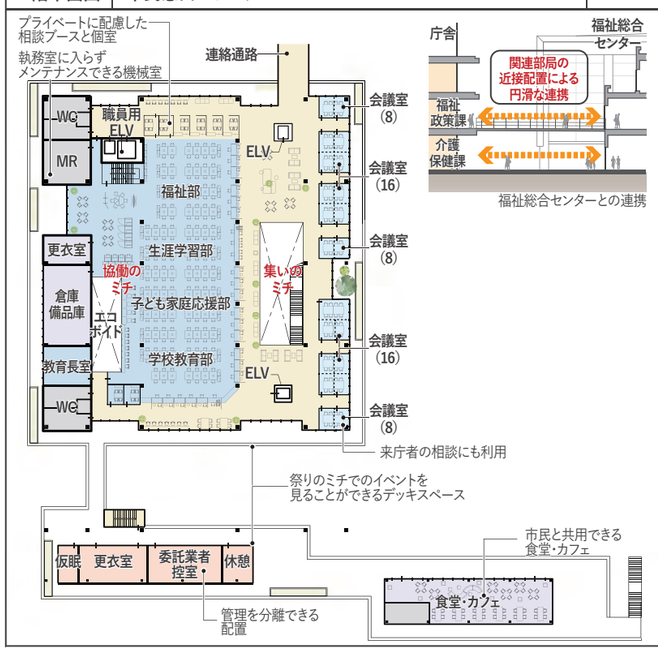
- 市民窓口フロアは、来庁者数や相談内容に応じ、1階から3階に配置します。上階ほどプライバシーを確保しやすく、使いやすさと安心感を両立できる窓口をご提案します。
- 階ごとに関連性の高い課を配置し、連携を図りやすい計画です。



サービスのグラデーション

1階 暮らし・保険	2階 子育て・教育・福祉	3階 税・生活支援
・市民課 ・健康保険課 ・介護保険課	・子ども家庭応援部 ・教育総務課 ・障害者支援課 ・福祉政策課・スポーツ振興課	・税総合窓口（市民税課、固定資産税課、納税課） ・生活福祉課他
・転入・転出や出生・死亡といったライフイベントに伴い、保険や福祉の手続きが同時に行える。 ・ワンフロアに集約し移動距離の最短化とテーマ別のワンストップ窓口の開設にも備えます。	・子育てと教育を集約し連携強化。 ・プライバシーを守りたい障害者支援窓口を設け、教育面のサポートもしやすい配置です。 ・福祉総合センターの管轄部署を配置し、施設間連携を高めます。	・目的性が高くプライバシーに配慮したい税関連窓口を配置。 ・職員が多い生活福祉課は、センシティブな相談に配慮し、不特定の市民が往来しない3階に配置。ハローワークとの連携にも配慮。

2階平面図　市民窓口のフロア　1:900



福祉総合センターとの連携

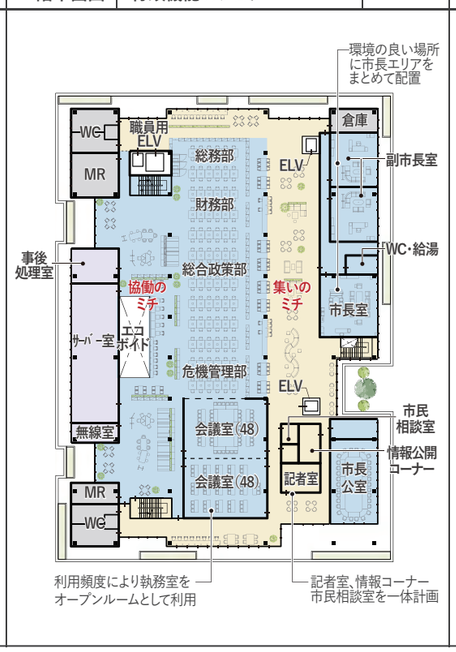
3階平面図　市民窓口のフロア　1:900



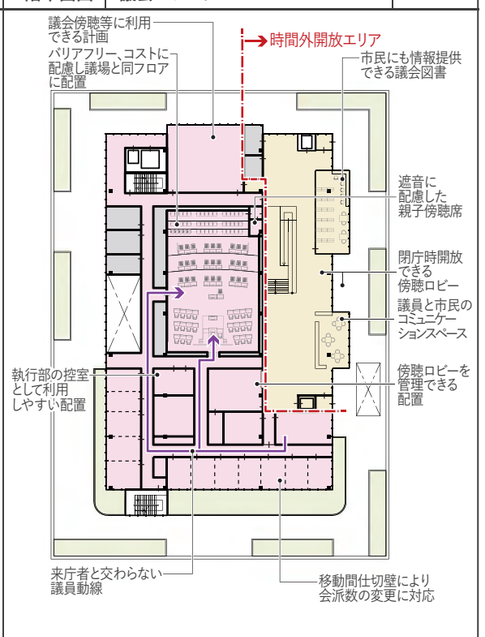
4階平面図　行政機能のフロア　1:900



5階平面図　行政機能のフロア　1:900



6階平面図　議会のフロア　1:900



受付番号

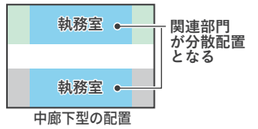
「協働のミチ」と「集いのミチ」でつながる、新たな行政サービスのプラットフォーム

【執務空間計画（執務空間．家具配置）】執務空間の快適性・合理性

広いワンフロアによる、一体性、利便性、効率性の高い合理的な執務空間

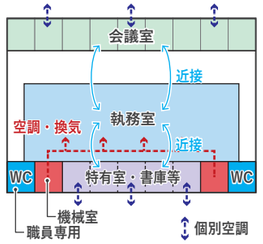
フレキシビリティの高いワークプレイス

- 柱の少ないロングスパン構造によりフレキシビリティが高く面積効率の良いワンルームのワークプレイスを計画します。
- 関係性の高い部門をひとまとまりで各フロアに集約します。
- 見通しの良く一体感のある執務環境により、部門を横断した業務連携を促進します。
- 会議室や後方諸室も集約し、フロア全体で共有しやすい機能性と効率の良い計画です。



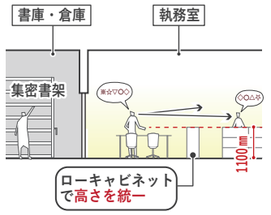
利便性を追求した関係機能の隣接配置

- 会議室や後方諸室は東西に集約し、執務室のどの課からも近接した関係とします。
- 各課の近くに必要な特有室を配置し、業務効率を高めます。また、特有室は乾式壁で間仕切り、将来の用途変更にも対応しやすい計画とします。
- 執務室の空調機械室はダクト長を考慮した位置、個別空調の諸室は、給排気効率の良い外壁に面し配置します。総合的に合理性の高い計画です。



書架の集約による、安全性と課の繋がりを生む執務環境

- 広いフロアを活用し、書架や倉庫を各階にバランスよく配置します。
- 保存文書は集密書架により収納効率を高めることで、執務室内の業務書類はローキャビネットで統一します。
- 高い書架のない見通しの良い執務室により、課同士の横のつながりを高めるとともに、地震時の書架の転倒被害から職員を守る、安全な執務環境を実現します。



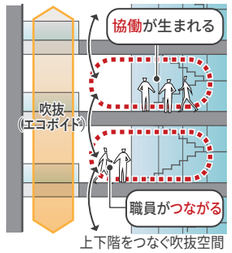


【執務空間計画（執務空間．家具配置）】執務空間の快適性・合理性

行政のコミュニケーションの核となる「協働のミチ」

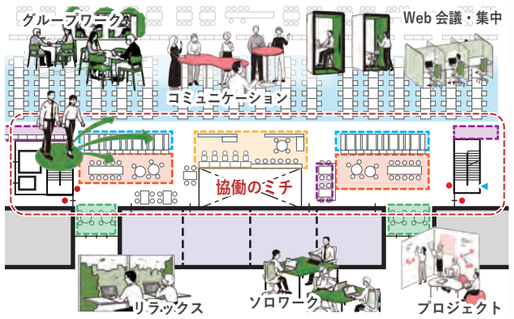
階を越えて、部局を越えて交わる行政サービス創出の核

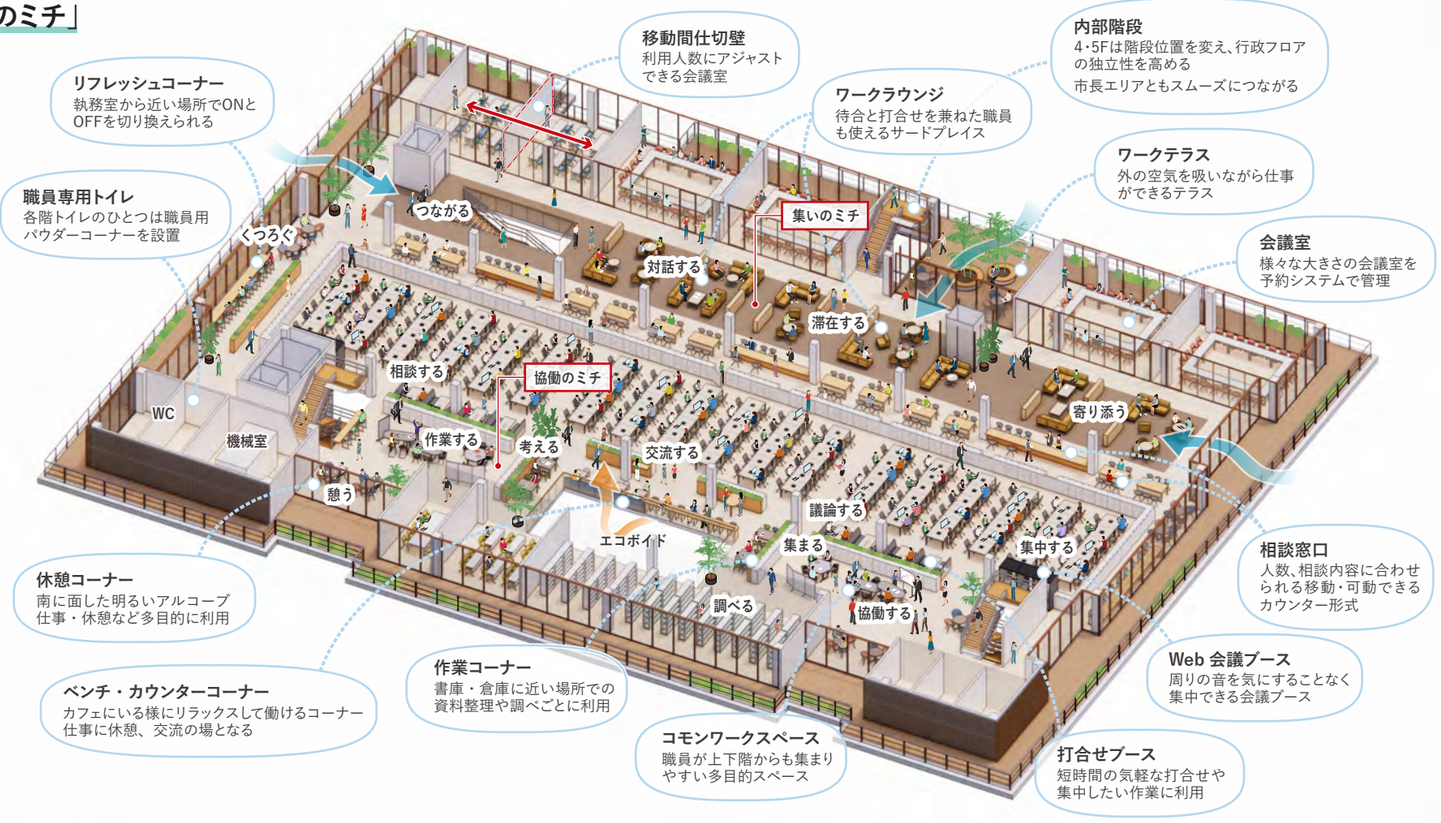
- 階ごとに執務室を分断することなく、異なる階、異なる部局を階段と吹き抜けでつなぎ、動線面と空間面での一体性を高めます。
- 建築計画によって執務室をシームレスにつなげることで職員の交流が促され、これまでにない協働によって、新たな行政サービスが生まれる場所を目指します。



働き方を選べる、全職員に開かれたワークスペース

- 協働のミチは、集中・交流・協働・オンライン会議など、目的に応じて働ける全ての職員の為のワークスペースです。
- 執務室の中心となる場所であり、同じ階からも他の階からも職員が自然と集まる、コミュニケーションの核になります。
- 業務だけでなく、窓口の来庁者を気にすることなく昼食や休憩など、多目的に利用できるスペースとなります。





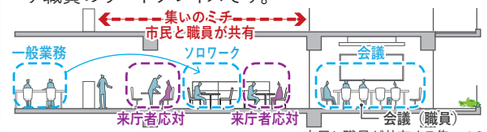
行政機能のフロアイメージ

【執務空間計画（執務空間．家具配置）】執務空間の快適性・合理性

職員のサードプレイスとなる「集いのミチ」

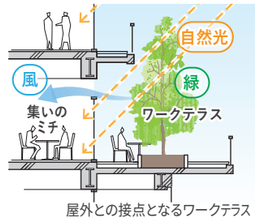
職員のサードプレイスとなる「集いのミチ」

- 4階、5階行政フロアの集いのミチは、待合を兼ねた市民や関係企業とのコミュニケーションの場であり、来庁者が少ない際は働く場として有効利用できる計画とします。
- 屋外に面する、リラックスした作業や職員同士の交流を促す職員のサードプレイスです。



光・風・緑がつくる市民と職員の豊かな交流空間

- 集いのミチにワークテラスを設け、光や風、緑の憩いを屋内空間に導きます。
- 自然を感じる豊かで快適な環境が市民と職員の交流を促します。
- ワークテラスにより、屋外との接点をつくることで、来庁者と職員の健康に配慮した庁舎となります。





【執務空間計画（執務空間．家具配置）】新しい働き方に対応した創造性

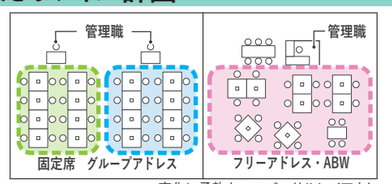
機能性を高める柔軟性を持ったオフィス計画

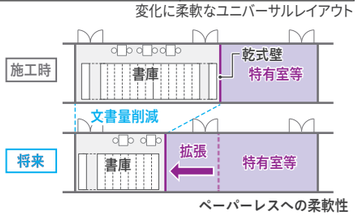
働き方を最適化する一歩先のユニバーサルレイアウト

- 一律にフリーアドレス方式を採用するのではなく、業務特性に応じ、課ごとに固定席やグループアドレス方式を選択できるオフィスレイアウトを計画します。
- 将来のDX技術の導入により、コストを掛けずに段階的にABWなどを取り入れることのできる計画をご提案します。

ペーパーレスの普及に応じた機能転換

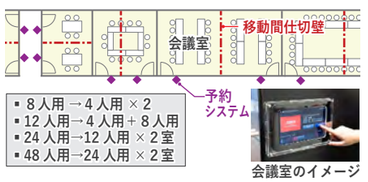
- 現状よりも50％の文書削減目標に対し、適切な保管スペースを計画します。
- 将来においては、各種文書の電子化や電子押印の普及によるペーパーレス化が進む為、書庫や倉庫を他の用途に転用しやすい計画とします。





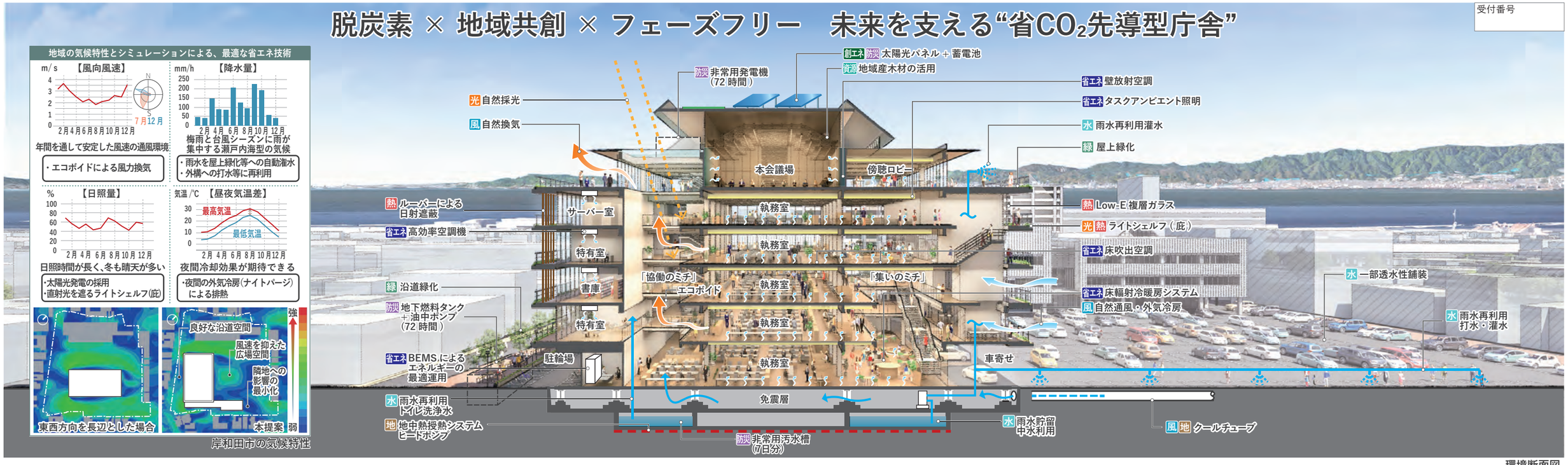
会議室の分散配置とデジタル管理 最適な運用による稼働率の向上

- 会議室は特定の階に集約せず、各階の課の会議頻度や人数、用途から、必要な規模・室数をバランスよく分散配置します。
- 移動間仕切り壁により、利用人数に合わせた柔軟な運用が行える計画とし、さらに、会議室予約システムを導入し、庁舎全体で共用し稼働率を高める計画とします。



受付番号

脱炭素 × 地域共創 × フェーズフリー　未来を支える“省CO_2先導型庁舎”



環境断面図

【環境設備計画】環境への配慮、持続可能性（ファサードの性能、照明空調のランニングコスト等）

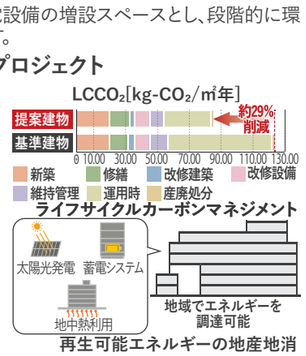
2030年の脱炭素社会を見据えた市役所モデル

ZEB Ready達成と段階的な Nearly ZEB の実現

- 高断熱な外壁や窓、西日対策、高効率空調設備の採用により、建物全体のエネルギー消費量を大幅に削減します。
- BEMSによりエネルギーの使用量を監視・分析し、運用段階での省エネルギーを継続的に推進します。
- 低層部の屋上を将来の太陽光発電設備の増設スペースとし、段階的に環境性能の向上が図れる計画とします。

省CO_2を先導するリーディングプロジェクト

- 低炭素コンクリートや電炉材、木材などの環境配慮型材料を採用し、建設時のCO_2排出量削減を図ります。
- 太陽光発電、蓄電池、地中熱利用により、再生可能エネルギーの地産地消を推進します。
- 設計・建設・運用・更新・解体までを見据えたライフサイクルカーボンマネジメントを実践します。
- 市の脱炭素施策を実践する先進的な公共建築として、省CO_2のモデルとなる庁舎を実現します。



再生可能エネルギーの地産地消

気候特性、立地特性を活かした省エネと快適性の両立

- 地域の気候特性を活かし、自然を感じる健康的な働く場を整え、職員のウェルビーイングを高めます。
- ワークテラスとエコボイドにより、自然通風や自然採光を取り入れ、省エネルギーと快適性を両立します。
- クールチューブと免震層を活用し、安定した地中熱により夜間の外気冷却(ナイトパージ)を検討します。



エコボイド



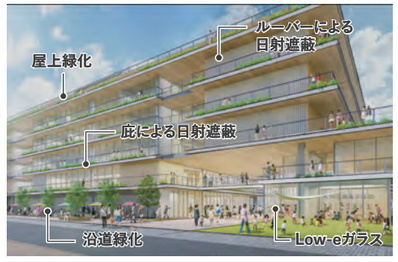
クールチューブ

地域と共に未来を創る地域共創プラットフォーム

- 発電量やCO_2削減量をデジタルサイネージで見える化し、市民の環境意識の向上につなげます。
- 多目的室やコワーキングスペース、祭りのミチなどの市民が立ち寄る場に、再生可能エネルギーを積極的に活用します。
- 岸和田市産木材や竹の利用、雨水を利用した緑化、多種多様な植栽計画など、庁舎そのものを環境学習の場とし、市民の環境行動を促す拠点を目指します。

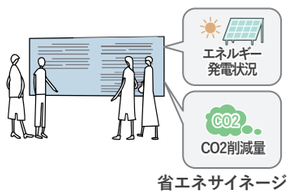


ZEBアイテム表

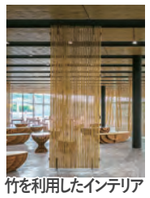




環境負荷低減の手法



省エネサイネージ



竹を利用したインテリア



地産材を利用した外観

【環境設備計画】BCP 性能（災害時の対応等）

「市民の安全・安心を支える防災拠点庁舎」～日常と非常時をつなぐ5つの基本方針～

新庁舎では、「日常」と「非日常」の境界をなくすフェーズフリーの考え方を採用し、災害時には防災拠点として迅速に切り替えることのできる空間構成と、停電や通信障害の発生時にも止まることのない行政サービスを支えるエネルギー・インフラシステムを構築します。これにより、将来にわたって市民の安全・安心を支え続ける持続可能な庁舎を提案します。

①業務継続機能（BCP）災害時でも止まらない行政サービス

高い耐震性能を確保するとともに、非常用発電設備、燃料備蓄、通信設備の冗長化を図り、大規模災害発生時にも行政機能を継続できる防災拠点を実現します。

経過	災害発生時	初動期		展開期	安定期	復旧期
		災害発生直後	～約 3 日	～約 1 週間	～約 2 週間	～約 3 ヶ月
タイムライン	庁舎の被害低減・安全確保	・災害対策本部設置 ・情報収集、発信 ・インフラ確保 ・一時避難場所	・各避難所とのネットワーク構築 ・安否情報発信 ・救急出し支援 ・設備機能維持	・物資受け入れ ・避難開始 ・ボランティア受付	・仮設住宅 ・罹災証明 ・学校開始 ・帰宅支援	通常業務への復旧
A フェーズフリー	免震構造	災害対策本部、非常電源、情報端末、放送設備		物資受け入れ		継続
	常用の諸室・設備の転用	災害設備倉庫、食料飲料水、WC テント、毛布			状況に応じて継続	
	マンホールトイレ	デジタルサイネージ館内放送設備活用	ボランティアリエゾン受入 職員泊込対応 / 炊出設備 仮設かまど		状況に応じて継続	
B インフラバックアップ	電源	非常用発電機(3日分)・太陽光・EV車		タンクローリー	復旧	
	上水	水源確保(3日分)(受水槽・耐震性貯水槽)		給水車で補給		復旧
	雑用水	水源確保(3日分)(受水槽・井戸)		井戸利用	給水車	復旧
	汚水 ×	緊急排水槽(7日分)			汚水搬出	復旧
	空調 遮断	空調(重要エリア)継続運転(発電機)自然換気				復旧

災害時のライフラインの確保

②フェーズフリー、持続可能性を高める日常と非常時のシームレスな転換

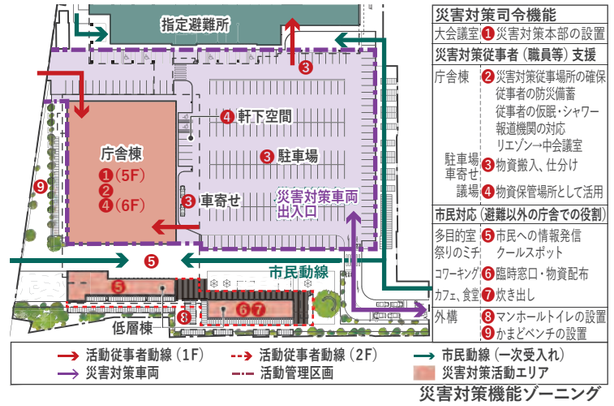
平常時には市民利用や職員の協働を促進する空間として活用し、災害時には防災拠点へと円滑に切り替えられるフレキシブルな空間構成とします。日常と非常時をつなぐ持続可能な庁舎を提案します。

日常時の機能	災害時の機能	機能転換の目的・役割
大会議室	災害対策本部	情報収集、災害対応方針の決定、指揮命令を行う中枢拠点
中会議室	リエゾンスペース	行政・関係機関との連絡調整、情報共有を行う拠点
市長公室	メディア対応スペース	記者会見や報道対応を行う、正確な災害情報の発信拠点
多目的室	情報発信スペース	被災者向け情報の発信や情報掲示を行う広報拠点
コワーキングスペース	臨時相談・罹災証明発行窓口	被災者からの相談受付や各種手続きを支援する窓口機
食堂・カフェ	炊き出しスペース	被災者や活動従事者へ食事を提供する生活支援拠点
議場・委員会室	活動従事者休憩スペース	災害対応に従事する職員や支援者の休憩スペース

災害時の機能転換

③受援機能と市民の安心を両立する柔軟性ある施設計画

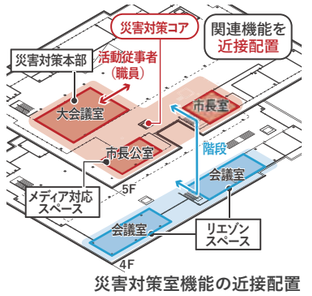
- 広い駐車場は、災害対策専用車両や物資の受け入れの場に転換し、車寄せ屋根を荷捌きや保管スペースとして活用できる計画とします。祭りのミチは、市民への情報発信の場となり、炊き出しや給電スポット、クールスポットなどとして活用できる計画とします。
- 平時の歩車分離を徹底した外構計画が、市民と災害対策従事者が交わらない機能的な防災拠点を実現する計画です。



災害対策機能ゾーニング

④迅速な意思決定を支える災害対策の司令塔

- 災害対策本部や危機管理機能を同一フロアに集約し、迅速な意思決定と情報共有を実現できる「災害対応コア」を提案します。平常時の会議室は、災害時には速やかに災害対策本部へ転換できる計画とします。
- 災害対策本部に隣接してリエゾンスペースを配置し、自衛隊、警察、消防、医療機関、ライフライン事業者などとの円滑な連携体制を構築します。顔の見える距離での情報共有により、迅速な調整と対応を可能とします。



災害対策室機能の近接配置

受付番号

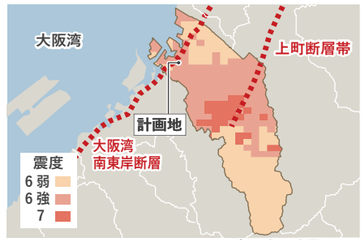
災害に強く永きにわたり受け継ぐ持続可能な庁舎

【構造計画】BCP 性能（免震構造、災害時の業務継続可能な構造性能）

レジリエンスの強化による堅牢な庁舎

地域性を踏まえた災害に対する備え

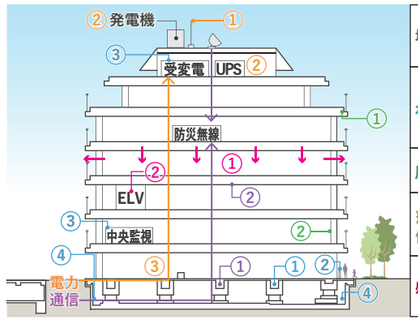
- 岸和田市は、高い発生確率が想定される南海トラフ地震のほか、上町断層や中央構造線などの活断層にも近接し、想定震度6弱～7の揺れが予想される地震リスクの高いエリアです。大地震の発生後も災害対策拠点として機能維持できるよう免震構造を採用します。



計画地の地震リスク

あらゆるリスクに備え、庁舎機能を止めない防災拠点

- 大規模地震、風水害、落雷、感染症など、近年増加する様々な災害を想定し、市民・職員の安全と庁舎機能の継続を両立する計画とします。
- 防災拠点としての仕様・ガイドラインを満たすことに加え、建築・設備・外構・インフラを横断的に検証し、想定外にも対応できる余裕と冗長性を備えた、しなやかな防災拠点を構築します。



地震	①免震構造 ②スケルトン天井（二次災害防止）
水害	①1FLの嵩上げ ②防水板 ③重要機器上階設置 ④免震ピットの排水
風害	①庇の耐風強度 ②強風を緩和する窓
落雷 停電	①被雷設備 ②発電機・UPS ③2回線受電（検討）
感染症	①変風量換気設備 ②ELV等接触部の抗菌仕様

あらゆる災害への対策

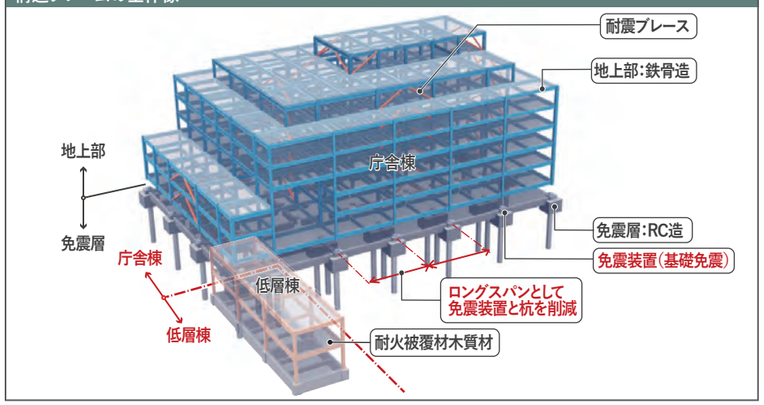
堅牢かつ合理性を追求した構造計画

- 構造形式は、堅牢性や耐久性を確保でき、工期においても優位となる鉄骨造を基本とします。
- 上部構造はロングスパン化しフレキシビリティを高めるとともに、建物重量の軽量化による免震装置や杭の負担を抑えます。
- 施設利用に影響のない場所にブレースを配置し、剛性・耐力を確保し免震効率を高めます。

防災拠点を足元から支える免震・基礎計画

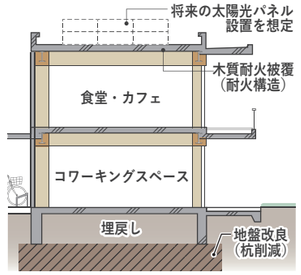
- 防災拠点であることや、大規模地震から建物全体を守る必要性から基礎免震構造とします。
- 免震層は装置高さの小さい球面すべり支承を検討するなど、想定される地震動に対し免震効果の高い装置を選定します。また、想定外の揺れでも免震性能を発揮できるよう可動範囲を十分に確保します。
- 杭は十分な支持力を確保するとともに、大地震時の地盤変形や液状化にも耐えられるよう耐力・靭性・剛性を確保できる工法を選定します。

構造フレームの全体像



経済性と空間性を高める低層棟の独立構造

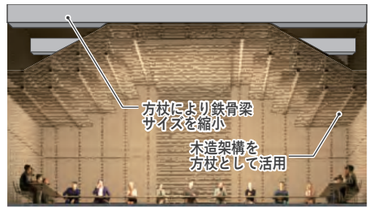
- 建物重量が軽い低層棟は、免震範囲から分離し独立した耐震構造とします。
- 地盤改良を行いべた基礎で支持することで、杭の削減に伴う建設コストの縮減を図ります。
- 低層棟は耐火構造の鉄骨造とし、柱・梁に木材の耐火被覆を用いた、鉄と木のハイブリット工法を採用します。温かみのある木質仕上げにより、市民が親しみを感じる空間づくりを目指します。



木質材料の活用

地域経済・地球環境に貢献する木材の積極活用

- 議場は、だんじりをモチーフにした木造屋根架構をインテリアに表し、岸和田市らしさをあらわす象徴的な議場空間を創出します。
- 木材は、市場流通材を利用することでコストアップを抑制するとともに、市産材の活用を通し、地域の林業のPRや、地域経済の活性化に貢献します。
- また、積極的な木材の活用により、CO_2排出量の削減、固定化など、環境に配慮した構造計画を行います。



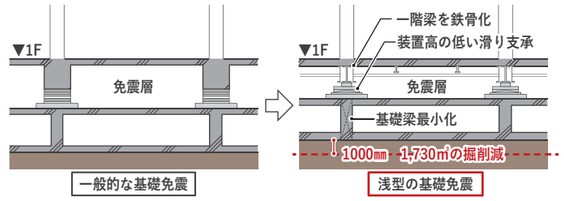
だんじりをモチーフとした屋根架構

【構造計画】合理的な構造計画（構造空間堅牢性、経済性）

構造躯体における経済合理性と環境性の両立

浅型免震工法による土工事の削減

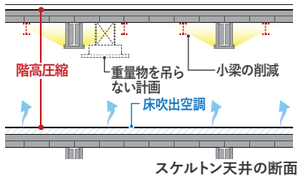
- 免震構法においては、一般的に1階床梁は鉄筋コンクリート造となります。
- 本計画では鉄骨梁とし、梁せいの抑制と、高さの低い免震装置の選定、基礎梁の圧縮により、免震工法に伴う掘削量を最小限に抑えます。



浅型の基礎免震構法

構造の合理化による、鉄骨量・施工負荷の低減

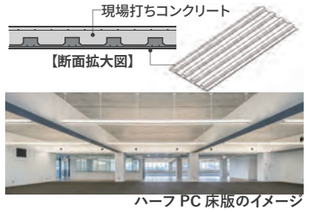
- 待合や執務室などの大空間は、スケルトン天井とし、適正な空間気積を確保するとともに、階高を圧縮し鉄骨量を削減します。
- さらに、横補剛省略工法により鉄骨小梁を削減し、建設コストの削減と、鉄骨建方作業の省力化につなげます。



スケルトン天井の断面

低炭素化と長寿命を両立する構造計画

- 各階の床スラブには、木質型枠が不要なハーフPC床版を採用し、環境配慮と高い品質を両立します。
- リサイクル材料である電炉鋼材を積極的に採用し建設時排出CO_2を削減します。
- 外部に露出する鉄骨部材のメッキ処理を行い構造部材の耐久性を高め長寿命化を図ります。



ハーフ PC 床版のイメージ

【ライフサイクルコスト、維持管理計画】維持管理のしやすさ、耐久性、総合的なランニングコスト等

60年のコストをデザインする、市民負担を最小化する庁舎

空間とエネルギーを無駄なく使う、効率的な施設計画

- 空間とエネルギーの双方を効率的に使い、日々のランニングコストを抑え、長期的なライフサイクルコストの低減につなげます。
- 会議室や市民活動スペースは、時間帯に応じて市民と職員が柔軟に重ね使いできる計画とし、限られた空間を最大限に活用します。
- 時間外利用する諸室は、エリアごとに独立して運用できる設備計画としエネルギーロスを低減します。
- 庇、高断熱外皮、Low-Eガラスによる熱負荷対策と自然採光や自然換気を組み合わせ、消費エネルギーを減らす庁舎を目指します。

スマートで効率的な設備計画

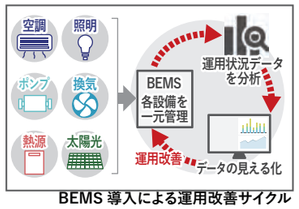
- 窓口、執務室、会議室、議場など機能別の設備ゾーニングと人感センサーや明るさセンサー、個別空調と自動制御を組み合わせ、必要な場所にだけエネルギーを使う、スマートな空調・照明設備を計画します。

維持管理軽減	独立運用が可能な配置 各エリア単独運用が可能な配置によるエネルギーロスの低減
	効率的なプランニング 柔軟な執務室レイアウトや重ね使いによる会議室等の重ね使いによる空間の効率化
	機材の長寿命化 塩害フィルターの活用や腐食しにくい金属への転換
	配管スペース確保による設備機器更新の容易さ 余裕のある設備配管スペースの確保
	機器保守費の削減 取扱い容易な機器採用
自然エネルギー	風 冷涼な外気の有効活用 自然通風・ナイトパージ
	熱 外皮負荷の低減 庇や西側諸室配置による熱負荷低減
	熱 地中熱利用 免震層を利用したクール・ヒートトレンチ
	水 水資源の利用　中水利用、雨水利用
	光 太陽光利用　自然採光
機械エネルギー	光熱 再生可能エネルギー 太陽光発電、地中熱ヒートポンプ
	熱 空調エネルギー削減 高効率機器・全熱交換器・外気冷房・CO2濃度制御・変流量・変風量制御
	光 照明エネルギー削減 LED・人感、明るさセンサー・タスクアンビエント照明

ライフサイクルコスト縮減項目

エネルギーをつくる・蓄える、光熱費削減と防災の両立

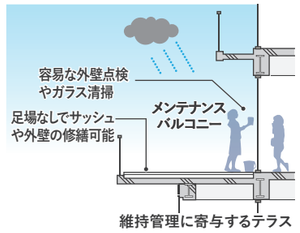
- 太陽光発電と蓄電池により、平常時は電力使用量を削減し、災害時には非常用電源として活用する「省エネ」と「防災」を一体化したエネルギー計画を立案します。
- BEMSにより、電力・空調・照明などの使用状況を把握し、エネルギーの無駄を継続的に発見・改善できる運用計画を提案します。



BEMS 導入による運用改善サイクル

長寿命でメンテナンス性の高い庁舎

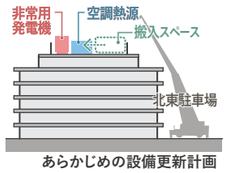
- 高耐久コンクリートによる構造躯体の長寿命化や、雨水、紫外線から建築を守る外装計画により、長寿命化を図ります。
- メンテナンスバルコニーを設け、外装材の清掃や点検の容易性・安全性に配慮します。
- 清掃しやすい仕上げ材やメンテナンスしやすい床置空調機など、維持費の低減に配慮します。



維持管理に寄与するテラス

更新し続けることのできる庁舎

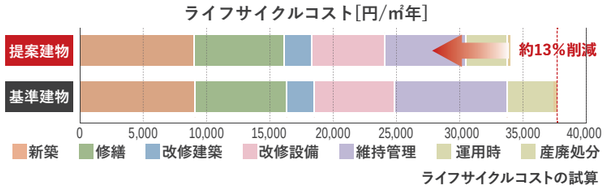
- トイレや空調機械室、設備シャフトを集約し、配管・ダクトルートの合理化により将来更新時の費用負担を低減します。
- 屋上の設備機器は、あらかじめ更新ルートを想定した施設計画を行います。
- 議員控室は、頻繁にレイアウト変更が必要な為、可動間仕切り壁により必要な室数や大きさに改修できる計画とします。



あらかじめの設備更新計画

60年先まで見据えたライフサイクルコストの低減

- 施設計画の合理化による工事費削減やZEBReadyの達成による光熱費の削減、維持管理における運用コストの低減により、標準建物に比べ60年のライフサイクルコストを13%削減します。



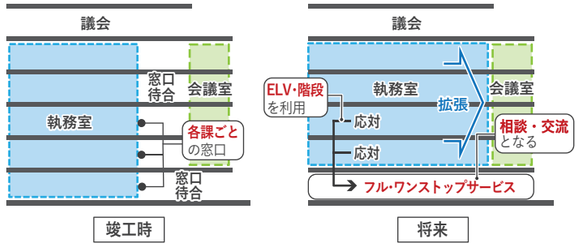
ライフサイクルコストの試算

【ライフサイクルコスト、維持管理計画】維持管理のしやすさ、耐久性、総合的なランニングコスト等

将来のあらゆる変化に適応できる柔軟性ある庁舎

DX技術の普及に伴う「市民サービスの未来」への準備

- これからは、オンライン申請などの普及に伴い、手続きのための窓口が縮小します。竣工時の姿を固定せず、可動式のカウンターや更新しやすい設備計画により可変性ある窓口を計画します。
- さらに、執務室内の階段を設けておくことで、将来的には1階のみを市民窓口とした、フルワンストップサービスに移行できる計画とします。
- このような市民サービスの変化に容易に対応できることで、将来の改修費用を低減できる施設計画を行います。



将来のフロアゾーニング

近い将来のDXを受け入れる設備設計

- 将来の通信技術やICT機器の進化に備え、電源容量や通信回線、配線ルートに更新・増設のゆとりを確保します。
- 各階のEPSを執務室に近接配置し、機器の増設や拡張、更新が容易な計画とします。
- 変化するDX技術を無理なく受け入れ、長期にわたり安定した行政サービスを支える設備インフラを構築します。

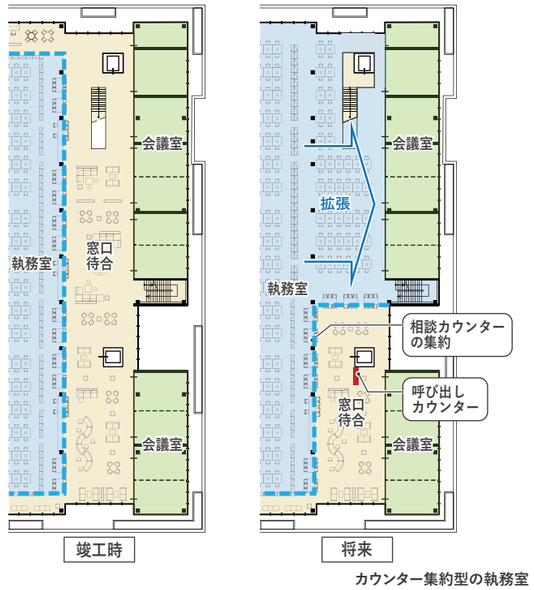
～DX受入れの為の設備計画～

1. 天井・床下の配線更新性
2. EPS・PSの余裕
3. 電源容量の将来余地
4. 電気室の増設スペース
5. 通信ラックの増設余地
6. フレキシブルな照明・設備
7. BIMによる建物情報管理

DX 技術導入への備え

市全体の公共施設マネジメントを見据えた行政拠点

- 来庁者の目的性が高い4階と5階は、相談の予約制や内線での呼び出しにより、カウンター集約型のコンパクトな窓口計画が行えます。
- カウンター集約型に可変できる計画としておくことで、職員数の増加や公共施設の機能集約、仮事務所利用などに対する拡張性が生まれます。
- 行政の拠点施設として、公共施設の再編や効率化、施設更新を念頭に置いた計画とすることで、将来にわたる市民の費用負担を軽減します。



カウンター集約型の執務室